

## 「第18回石川県書写書道教育研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長  
第18回石川県書写書道教育研究大会長  
藤 則 雄

石川県書写書道教育連盟は、幼稚園から大学に至るすべての学校教育機構が一体となり、授業研究を中心に、最近における書写書道に関わる教育諸問題や教育改革に伴う教師の資質向上に力を注ぎ、児童・生徒の豊かな心の育成に資する全国大会での研究発表や今日的教材研究の討議を行なっていました。

19年度は、12月4日に金沢市立三谷小学校を会場とし、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」をテーマとして大会が開催され、

研究協議会Ⅰ 授業実践に向けての具体的手立てを考える；全国大会参加報告  
第48回全日本書写書道教育研究大会 香川大会報告  
報告者 佃 さえ子（金沢市立泉野小学校）

公開授業 小学校5年  
文字の大きさ（漢字と仮名）を知ろう 題材「読む」  
指導者 新谷 幸一（金沢市立三谷小学校）

研究協議会Ⅱ 実践発表と公開授業整理会

1) 実践発表「創作書道 一書を身近に感じる授業の展開ー(書道Ⅰ)」

発表者 池崎美枝子（日本航空第二高等学校）  
助言者 新谷 喜之（石川県教育委員会指導主事）  
司 会 水上真由美（石川県立金沢商業高等学校）

2) 公開授業についての授業整理会

助言者 新谷 喜之（石川県教育委員会指導主事）  
司 会 石野 昌子（金沢市立扇台小学校）  
記 録 金野 豊（金沢市立十一屋小学校）

等で、夫々に極めて真剣な討議と総括がなされ、真に有意義な大会でありました。

本「大会集録」には、平成19年度の研究大会の報告を中心に掲載してあります。

会員各位には、本誌をご参考に、石川県の書写書道教育の更なる発展の一助ともされ、何とぞ「心の優しい、豊かな心」の生徒を育てて下さい。

平成19年度における各種活動や研究大会の開催に多大のご尽力を賜った実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営に並々ならぬご努力を頂いた役員、及び補佐の任に当たられた方々に、また本年度の研究大会でご発表された諸先生方と実践発表にご協力された助言者・司会・記録者に心からの敬意と感謝の意を表します。

本会の益々の発展と会員のご健勝・精進を祈念いたします。

## 目 次

1. はじめに .....	1
2. 第18回石川県書写書道教育研究大会要項 .....	3
3. 研究協議会Ⅰ報告 .....	7
「授業実践に向けての具体的手立てを考える」	
◇第48回全日本書写書道教育研究大会報告	
佃 さえ子 (金沢市立泉野小学校)	
4. 公開授業 .....	14
小学校5年 「文字の大きさ(漢字と仮名)を知ろう」	
題材 「読む」	
新谷 幸一 (金沢市立三谷小学校)	
5. 研究協議会Ⅱ報告 .....	17
実践発表	
◇「創作書道 書を身近に感じる授業の展開」	
池崎 美枝子 (航空第二高等学校)	
6. 大会に参加して .....	31
7. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ .....	33
8. 平成19年度石川県書写書道教育連盟役員一覧 .....	38
9. 石川県書写書道教育連盟規約 .....	40

# 第18回石川県書写書道教育研究大会

平成19年12月4日(火)

第18回

# 石川県書写書道教育研究大会

金沢市立三谷小学校

大会テーマ

**「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」**

～自ら生活に生かせる確かな書写力をはぐくむ授業とは～

主催:石川県書写書道教育連盟

後援:石川県教育委員会

:金沢市教育委員会

:石川県私立幼稚園協会

## 日程

13:15  
～13:45  
理事会  
(役員)

3F会議室

13:45 ～  
受付

14:00～14:30  
研究協議会Ⅰ

1F 多目的室

14:40～15:25  
公開授業

3F 5年教室

15:35～15:45

全体会

15:45～16:50

研究協議会Ⅱ

1F 多目的室

**研究協議会 I (14:00~14:30)**

(敬称略)

**研究協議『授業実践に向けての具体的手立てを考える』**

**\*「全国大会」参加報告  
第48回全日本書写書道教育研究大会 香川大会報告**

報告者 佃 さえ子 (金沢市立泉野小学校)

**公開授業 (14:40~15:25)**

(敬称略)

**小学校5年  
文字の大きさ(漢字と仮名)を知ろう 題材「読む」**

指導者 新谷 幸一 (金沢市立三谷小学校)

**全体会・研究協議会Ⅱ（15：35～16：50）**

(敬称略)

**全体会**      \*あいさつ 石川県書写書道教育連盟会長  
              \*祝 辞 石川県教育委員会・金沢市教育委員会

**高等学校**

\*実践発表 「創作書道 一書を身近に感じる授業の展開―(書道Ⅰ)」  
発表者 池崎美枝子 (日本航空第二高等学校)  
助言者 新谷 喜之 (石川県教育委員会指導主事)  
司 会 水上真由美 (石川県立金沢商業高等学校)

**小学校**

\*公開授業についての授業整理会  
指導者 新谷 幸一 (金沢市立三谷小学校)  
助言者 新谷 喜之 (石川県教育委員会指導主事)  
司 会 石野 昌子 (金沢市立扇台小学校)  
記 録 金野 豊 (金沢市立十一屋小学校)

# 研究協議会 I 報告

実践発表レポート

研究協議会 I のまとめ

# 第48回 全日本書写書道教育研究会 香川大会 参加報告

金沢市立泉野小学校  
教諭 佃 さえ子

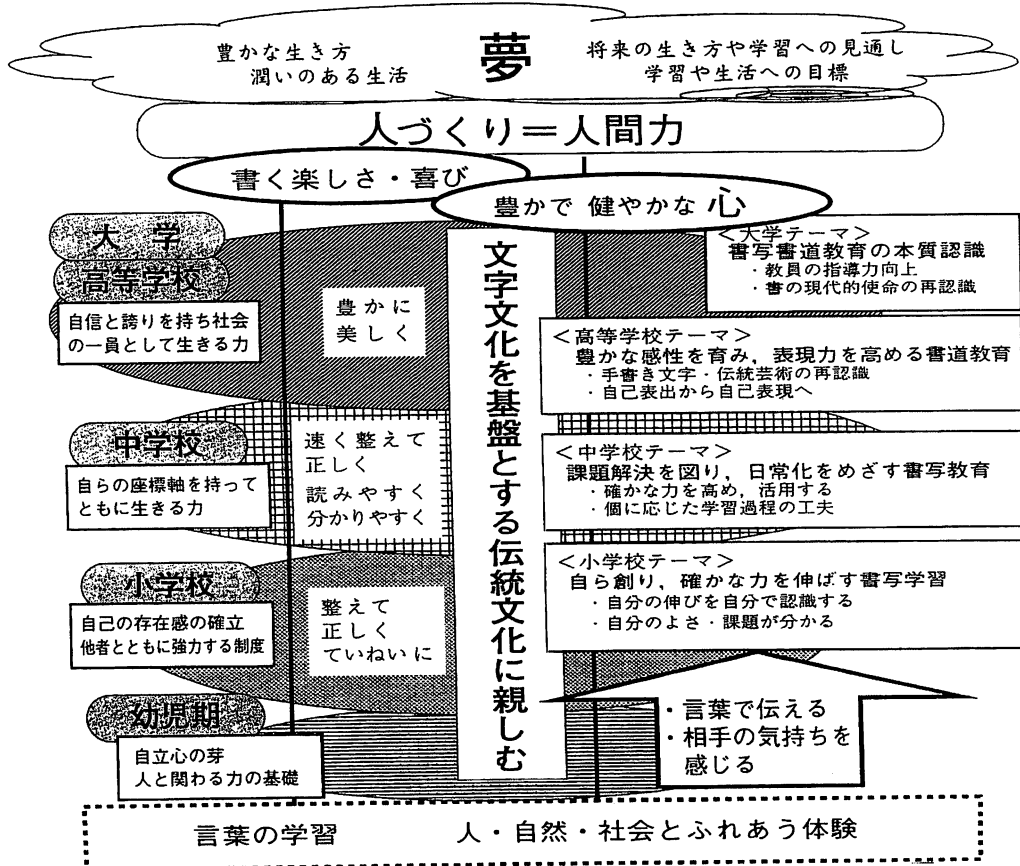
会期 平成19年11月2日(金)

会場 高松市立一宮小学校 高松市立一宮中学校 香川県社会福祉総合センター

日程(小学校部会) 9時~9時45分 公開授業1  
 9時45分~10時30分 公開授業2  
 10時50分~12時20分 分科会  
 14時20分~16時10分 全体会(○指導・講評 ○基調講演)  
 基調講演 演題「今求められる書写・書道教育Ⅱ」

大会主題 夢・人・心をつなぐ書写書道教育

- 小学校テーマ 「自ら創り、確かな力を伸ばす書写学習」
- 中学校テーマ 「課題解決を図り、日常化をめざした書写教育」
- 高等学校テーマ 「豊かな感性を育み、表現力を高める書道教育」
- 大学テーマ 「書写・書道教育の本質認識」





・小学校テーマについて

香川県小学校教育研究会書写部会では、平成14年より「自ら創り、確かな力を伸ばす書写学習」を研究主題として研究に取り組んで来たそうで、「自ら創る」とは、自ら学習課題や文字に対して問いかけ、働きかけながら学習を進めていくこと、即ち自分の課題を自分で解決していくことや、心に目を向けた表現を行うことを中心にした書写学習である。とし、「学ぼうとする力（意欲や態度）」「学ぶ力（思考力や判断力）」「学んだ力（知識・理解）」などの力のほか、これらの力を問題解決に生かせる「総合的な力」を含め「確かな力」と考える。また自分のよさも課題も自分で分かる「自己評価力」を伸ばすことが重要なポイントになる。としている。そして以下の4つを研究の視点としている。

- 視点1 自分で考え判断する課題解決的な学習過程の工夫
- 視点2 一人一人のよさを生かす指導と評価
- 視点3 年間を見通した教材・学習内容の構造化と単元計画
- 視点4 日常に生かすことができる学習財の開発

☆小学校部会会場校 高松市立一宮小学校の取り組み 【一宮小の書写教育より】

人権・同和教育を基盤とし、かかわり合いを通してお互いのよさを認め合うなかまづくりと一人一人に確かな学力をつけることをめざして研究を推進してきた学校である。

研究主題「互いのよさを認め合い よりよい自分づくりを  
～書写学習を中心とした 確かな力の育成～」

書写学習においてもお互いの課題、学び方、書いた文字などについての思いを話し合い、そのよさを見つけたり、広げたりする中で前述のような「感謝の心」「相手を受容する心」「自尊感情」「自己肯定感」を育てたいと考える。

書写の学習では、技能の上達の達成感、文字の原理・原則の発見の驚き、友だちに良さを認めてもらう喜びなど、様々な場面で自己肯定感や自尊感情につながる感情が生まれてくる。肯定的なよりよい感情は、よりよく伸びようとする自分づくりにもつながると考える。

よさを認め合う学び合いで大切にしたいことは、その学びの過程である。本校では、総合的な学習で課題解決能力をつけるために、「見つける ➡ 見つめる ➡ 筋道立てて考える ➡ まとめる ➡ 生活に生かす」という学びの過程を作成した。

この学びの過程はすべての学習において通用する基本の過程である。また、その過程には本校のテーマである「互いに認め合う」場も生まれる。

みみすませの学習過程

(\*は、学び合いの例)

み	見つける	(試書し、自分の文字の問題点を発見する。) *友だちと話し合いながら、共通課題をつかむ。
み	見つめる	(文字を向上させるポイント、課題を検討する。) *自分の課題について友だちと話し合う。
す	筋道立てて考える	(よりよい練習方法を選択し、実際に書く。) *練習コーナーでお互いの練習の様子から学び合う。
ま	まとめる	(まとめ書きをし、学んだことを確かめる。) *お互いの伸びやよさを話し合う。
せ	生活に生かす	(他の文字に、応用する。生活の中で書く。) *生活の中で生かされている友だちのよい文字を見つける。

## 研究の視点及び内容

「確かな力」を自ら考え課題解決する力、課題や技能を実際に活用する力、基礎的・基本的な知識や技能ととらえ、書写学習を通して身につけていく。また、人権・同和教育の取り組みを生かして、学びの中でお互いのよさを認め合う態度も育成していきたい。文字を書くことは、情報伝達の重要な方法の一つである。心を込めて読みやすく美しい文字で書くことは、相手の立場を考え、相手を思う態度を育てることにつながると考える。

### 視点① 書写の基礎・基本を身につけるための学習のあり方

基礎的・基本的な知識や技能を身につけることで、児童がよりよい自分をめざして学ぼうとする意欲が高まり、自信をもって学習に取り組めるようになるとともに、学んだことを日常に生かすことができると考える。

- ア 硬筆、毛筆の関連
- イ 書写学習を支える資料の工夫・環境の整備
- ウ 日常化を図るための単元計画の工夫や朝の活動

### 視点② 自ら課題を見つけ、解決していこうとする学習力の育成

一人一人が自分の文字を見つめ、思考・判断し、解決していこうとする学習を展開していくことで、総合的で確かな学習力を育成することができる。そして、自ら目的をもち、知識・技能を活用して主体的に課題解決していこうとする児童を育てることができると考える。

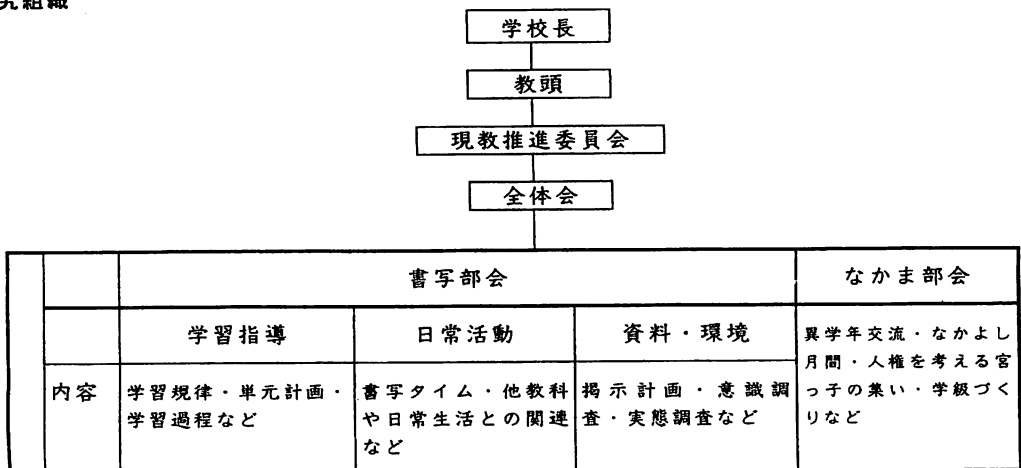
- ア 学習課程の工夫（みつめる→みつめる→すじみち立てて考える→まとめる→せいかつに生かす）
- イ 子どもが興味・関心をもって取り組む教材・活動の工夫
- ウ 家庭や地域との連携
- エ 伸びにつながる評価の在り方（評価規準、自己評価等）

### 視点③ お互いを尊重し、学び合う態度の育成

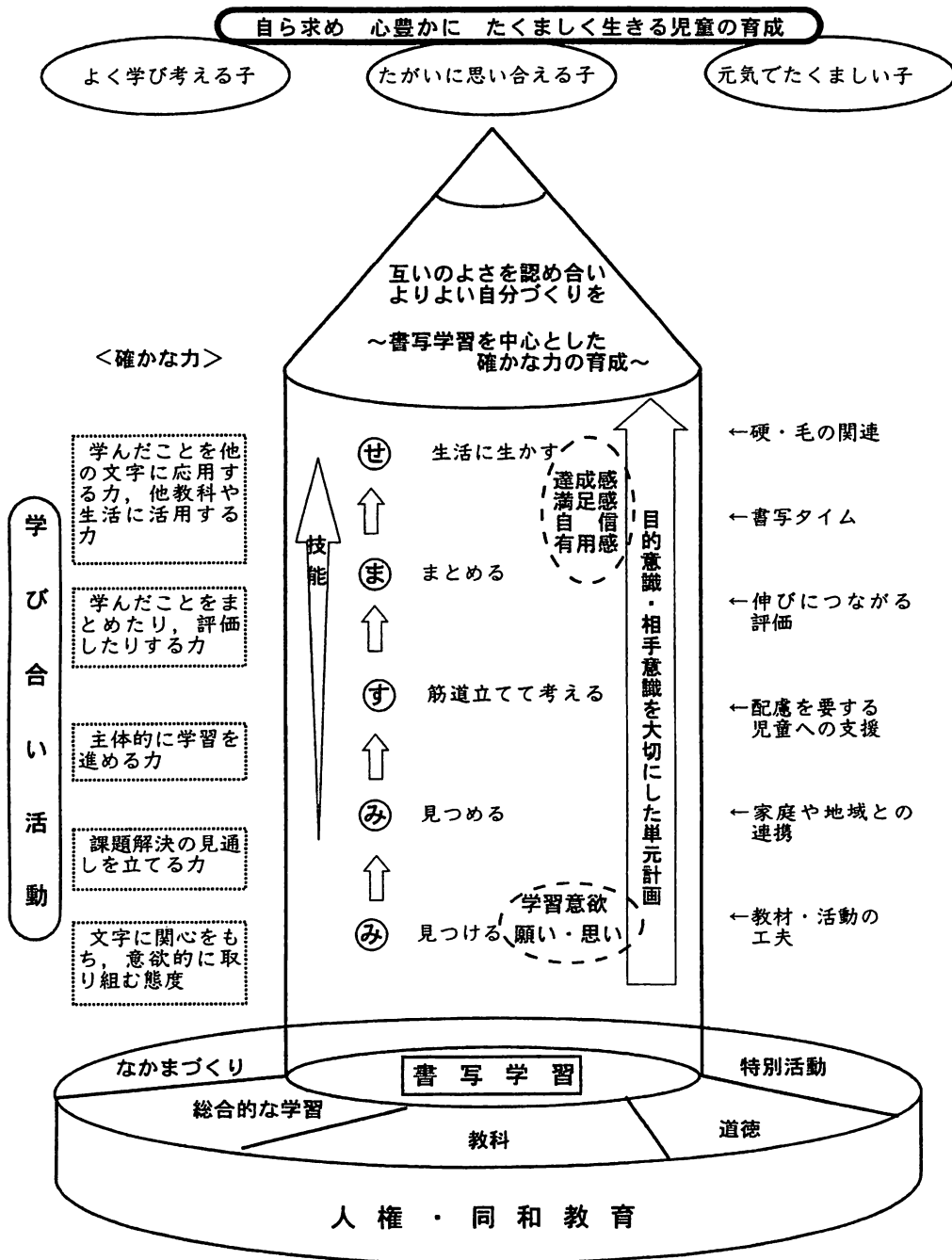
書写学習の学びの過程の中で、相手のよさに気づいたり、よさに学んだりすることでお互いを尊重し、学び合う態度が育つと考える。

- ア 学び合いの場の設定、学び合いの方法
- イ 相手を尊重した他者評価

## 研究組織



研究構造図



## 学習指導案の見方

	学習活動	児童の意識の流れ	教師の指導・支援・評価
み	1 (1)	学習課題	学 ← 学び合いの形態・方法・支援
み	(2)		
す	2		個 ← 配慮を要する児童を生かすための指導・支援やその個を取り巻く周囲に対する指導・支援
ま	3		
せ	4		評 ← 学習指導の途中で、指導方法の確認や修正のために行う評価

み…見つめる み…見つめる す…筋道立てて考える ま…まとめる せ…生活に生かす

「互いに認め合いながら、課題解決能力をつける」学びの過程  
※学習内容によっては、すべてを網羅しないこともある。

課題解決能力が身に付くように、「み（見つける）→み（見つめる）→す（筋道立てて考える）→ま（まとめる）→せ（生活に生かす）」の学習指導過程を基本として、1単位時間の学習指導を計画した。学習内容によっては1時間ですべての過程を網羅しない場合もあるが、この過程を基本として授業を構想している。また、この合い言葉「みみすませ」には、互いの思いや考えを心から聴き合うという意味も含まれている。

## 単元計画の見方

(例) 3年 単元名「筆となかよしになろう」(4~9月)  
—知らせたいことを伝えよう—

### <単元の目標>

- 毛筆の用具の特性が分かり、楽しく書く。
- 毛筆で習ったことを硬筆にも生かして、丁寧に書く。

単元の核となる表現活動

書写単元のスタートとなる教科・領域とその単元名

### <単元計画>

(全16時間)

国語科「みんなに知らせたいことを伝えよう」  
毛筆の筆使いを知り、習ったことを生かして知らせたいこと文章に書いて伝えよう

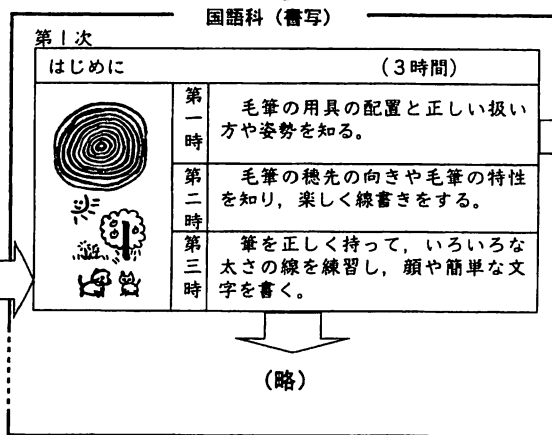
単元スタート時の児童の意識

他教科・他領域

関連する教科や領域

図工科「グルグルかくかく」

太い線、細い線、まがった線などいろいろな線を筆を使って引く。



書写タイム

わたしのめあて  
文字を書くときの正しい鉛筆の持ち方や姿勢を確認し、めあてを決める。

関連する書写タイム

単元の終末における児童の意識




友だちや家の人に知らせたいことを作文に書いたよ。書写で学習したことを思い出して、筆使いに気をつけて丁寧に書いたよ。

7 本時の学習指導

(本時①)

- (1) 目標 画の接し方の違いに気づき、画の接し方に注意して書く。  
 (2) 学習指導過程

第48回全書研 公開授業学習指導案

過程	学習活動	児童の意識の流れ	教師の指導・支援・評価								
み	1 本時の課題をつかむ。 (1) 「画がつく」ということを理解する。	<p>・漢字には、画がきちんとつく文字と、離れている文字がある。                  ・つき方が正しくないと、ちがう文字になることもある。</p> <p>画のつき方のひみつを見つけよう。</p>	<p>○ 正しく書けるようになったら、自分への賞状を書くことを確かめる。</p> <p>○ 画が離れている文字と接している文字を比べて、画が接するという意味を確認する。</p>								
み	(2) 画のつき方のポイントを見つける。	<p>教材文字の画のつき方を比べ、違いを見つけよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>縦画が横画につく。</p>  <p>横画が縦画につく。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>横画が出る。</p>  <p>横画が右に少し出る。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>縦画が出る。</p>  <p>縦画が少し出るように横画をつける。</p> </div> </div>	<p>○ 3種類の画の接し方の例を示し、違いを話し合うことで画の位置関係の理解を図る。</p> <p>○ 画が交わると、誤字につながることもあることを知らせ、正しく接することの大切さに気づくようにする。</p> <p>○ 分解文字を操作して、画がつく位置や縦画と横画の重なりなどが視覚的に理解できるようにする。</p>								
す	(3) 試書を見て、自分のめあてを決める。	<p>自分で練習方法を選んで、画のつき方に気をつけて練習しよう。</p>	<p>(T1) 練習用紙で適切な練習が行えているか、机間指導をして支援する。</p> <p>(T2) 練習コーナーで適切な練習が行えるように支援する。</p>								
ま	2 練習をする。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">&lt;練習用紙&gt;</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">&lt;水書用紙&gt;</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">&lt;ホワイトボード&gt;</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">&lt;分解文字&gt;</td> </tr> <tr> <td>鉛筆で正しく画をつけて書けるように何度も練習しよう。</td> <td>大きく書いて、画のつき方が正しくできたか、友だちにも確かめてもらう。</td> <td>画の長さや画がつく位置が分かるようにしよう。</td> <td>画の接し方を意識させるようにしよう。</td> </tr> </table>	<練習用紙>	<水書用紙>	<ホワイトボード>	<分解文字>	鉛筆で正しく画をつけて書けるように何度も練習しよう。	大きく書いて、画のつき方が正しくできたか、友だちにも確かめてもらう。	画の長さや画がつく位置が分かるようにしよう。	画の接し方を意識させるようにしよう。	<p>⑨ 画を正しくつけることができるように、声をかけたり、正しく書ければ認めたりすることで意欲を持続できるようにする。</p> <p>⑩ ベアで気をつける場所を言うことで、画の接し方を意識させる。</p>
<練習用紙>	<水書用紙>	<ホワイトボード>	<分解文字>								
鉛筆で正しく画をつけて書けるように何度も練習しよう。	大きく書いて、画のつき方が正しくできたか、友だちにも確かめてもらう。	画の長さや画がつく位置が分かるようにしよう。	画の接し方を意識させるようにしよう。								
ま	3 本時のまとめをする。 (1) まとめ書きをして、自己評価、相互評価をする。  (2) 画のつき方の違いでなかま分けをする。  (3) 次時の見通しをもつ。	<p>離れたり、交わったりしないようになったよ。</p> <p>画のつき方の違いに気をつけて書けるようになったよ。</p> <p>口、日の画のつき方は、難しいなあ。しまりを見つけて、もっと上手に書きたいなあ。縦画に横画がびたっとつく文字や横画や縦画が少し出る文字など、画のつき方はいろいろあるんだなあ。</p> <p>いろいろな漢字のなかま分けをしてみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">&lt;口のなかま&gt;</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">&lt;日のなかま&gt;</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">言 右 足</td> <td style="text-align: center;">白 園 田</td> </tr> </table> <p>次の時間は、《他の文字を見つけて発展学習するチャレンジコース》 《基本の文字を習熟するじっくりコース》に分かれて、もっと画のつき方が正しく書けるようにしよう。</p>	<口のなかま>	<日のなかま>	言 右 足	白 園 田	<p>○ 横画や縦画が出過ぎる場合は、書画カメラを使って正しく書けている児童の文字等を提示する。</p> <p>⑪ 画の接し方の違いに気をつけて書くことができたか。</p> <p>⑫ 画の接し方が正しく書けていたら自分で印をつけたり、ベアの友だちのよくてきたところを見つけ合ったりして伸びを確かめ合う。</p> <p>○ いくつかの漢字を「口」のなかまと「日」のなかまに分類する活動を通して、次時への学習の意欲を高める。</p> <p>○ コース別選択では、自分の書いたまとめ書きの「口」「日」が、正しく書けているかどうか見直して選択するように助言をする。</p>				
<口のなかま>	<日のなかま>										
言 右 足	白 園 田										



・公開授業について

公開授業1、2とも各学年一クラスずつ公開されていた。2年生を中心に参観したのでその様子を報告したい。

研究主題にせまるための低学年テーマは「友だちと楽しく取り組み、基礎を培う書写学習」ということで公開授業1、2ともペア学習を学び合いの基本に据えていた。

一宮小では低学年は複数担任制ということでそれをいかし、書写の授業でもTTやコース別にした少人数学習をおこなっているとのことで、公開授業1はTT、公開授業2はじっくりコースとチャレンジコースに別れた少人数学習が行われていた。公開授業1では、画のつき方のひみつを教材文字（工・ロ・日）から見つけ練習していくが、課題をつかむまでは一斉授業で、パソコンや分解文字を使い、子どもたちが理解しやすいように、ポイントとなる画が伸びたり縮んだりする工夫がなされていた。(写真1・2・3)

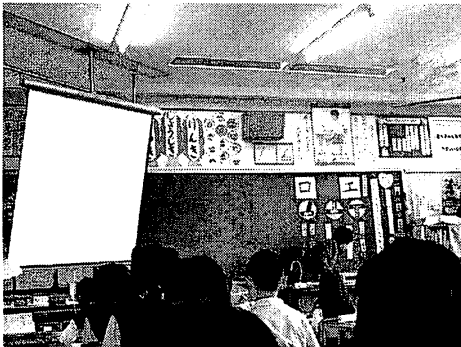


写真1

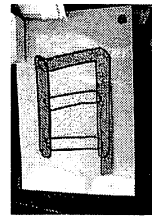


写真2

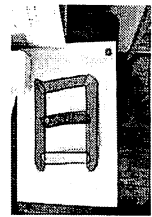


写真3

練習ではペア学習を基本とし、ペア学習の際の学び合いの約束や、ペアでの話し方などが丁寧に指導され、子どもたちの身につけていた。練習用に多彩なコーナーが用意され子どもたちは自分の目的に応じてそれぞれのコーナーに行き練習していた。どの子も意欲的でお互いにアドバイスし合う姿が見られた。(写真4～9)



写真4

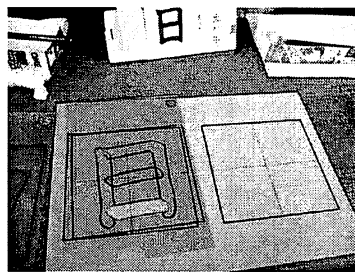


写真5

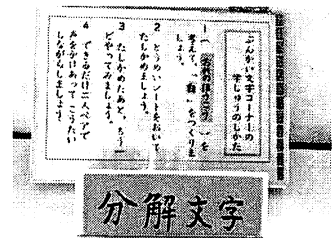


写真6

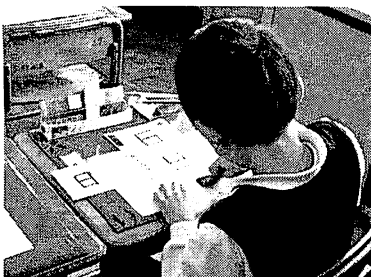


写真7

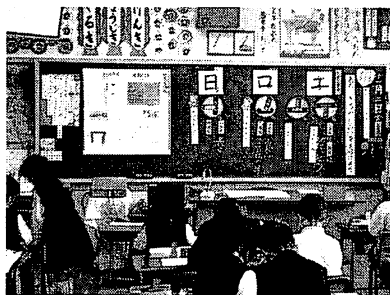


写真8

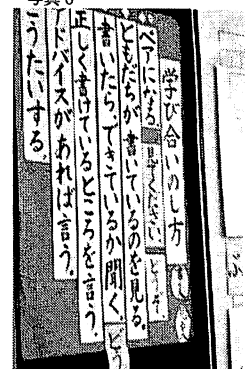
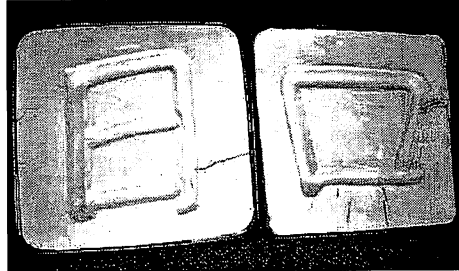
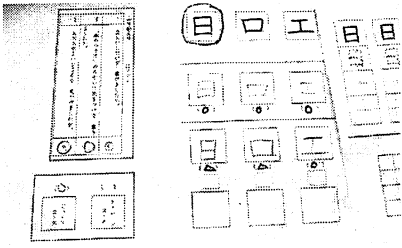
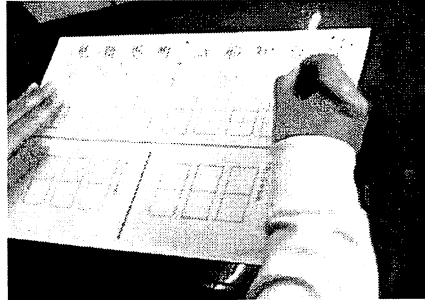


写真9

まとめではまとめ書きを自己評価、相互評価し、実物投影機で見合った後いろいろなかん字を<口のなかま><日のなかま>に分ける学習を行い、自分のまとめ書きをもとにコース選択《他の文字を見つけて発展学習するチャレンジコース》《基本の文字を習熟するじっくりコース》を行い次時への意欲を持たせていた。

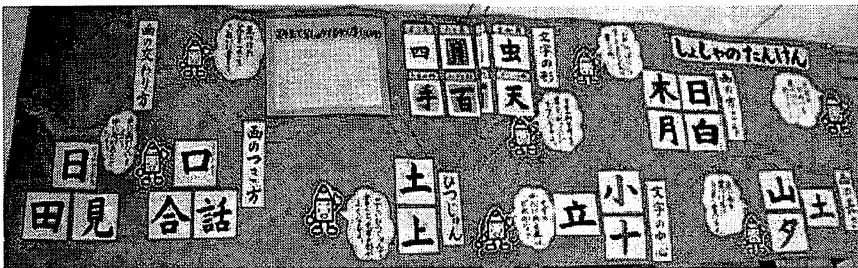


公開授業2ではクラスは異なるが1の続きの学習で、じっくりコースの子のために指でなぞると画のつき方が感じられるように、紙粘土に文字を彫り固めたものも用意され、何度も出来るまで挑戦する姿や、ペアで教え合う姿が見られた。



・分科会について

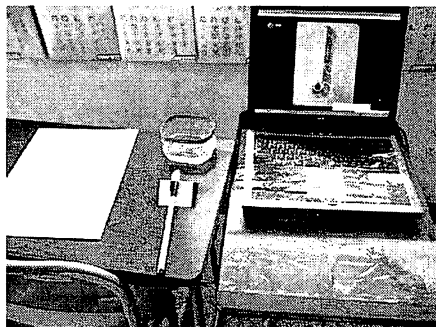
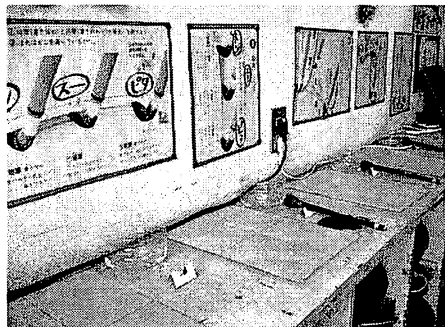
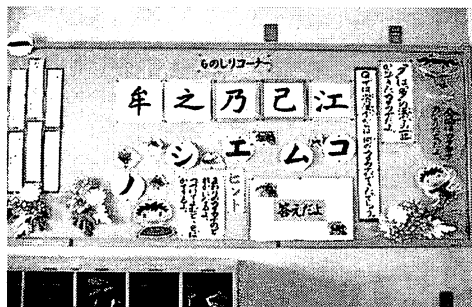
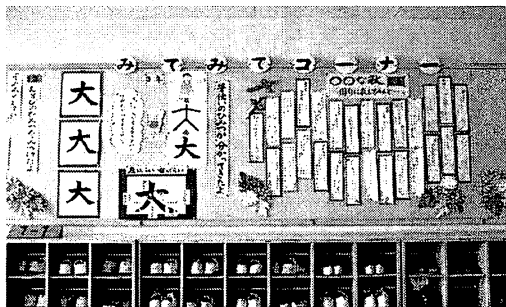
学年毎に分科会が持たれた。2年生の分科会に参加したが、学校全体での取り組みや学年集団での取り組みが報告された。教室や廊下など校内のいたるところに書写コーナーや工夫された掲示があったが、手書き文字による環境整備とともに、「しよしゃたんけん図」を常掲することで見通しをもった学習ができるようにしているとのことであった。(写真・下)



意見交換では、板書は硬筆（学習）である。書くだけの授業ではなく子どもたちが何を思い、感じ、どこに気をつけて書いたのかしゃべりきる必要がある。言葉の学習の場である。手書き文字…文化の継承を子どもたちとともにしていかなければなどの意見がだされた。



校内掲示や書写コーナーのようす



公 開 授 業 報 告

研 究 協 議 会 Ⅱ 報 告

実 践 発 表 レ ポ ー ト

## 5年1組 国語科書写学習指導案

平成19年12月4日(火)6限

授業者 三谷小学校 新谷幸一

### 1. 単元名 文字の大きさ(漢字と仮名)を知ろう (「読む」)

#### 2. 目標

- ・漢字と仮名の文字の大きさに関心を持ち、自分の課題をもって進んで書こうとする。(関心・意欲・態度)
- ・漢字と平仮名・片仮名の文字の大きさの違いを理解して書く。(技能)(理解)
- ・既習のへんとつくりのバランスや文字の外形、行の中心に気をつけて書く。(技能)

#### 3. 単元の評価規準

- ・漢字と仮名の文字の大きさに関心を持ち、自分の課題をもって進んで書くことができたか。(関心・意欲・態度)
- ・漢字と平仮名の文字の大きさの違いを理解して書くことができたか。(技能)(理解)
- ・既習のへんとつくりのバランスや字形、行の中心に気をつけて書くことができたか。(技能)

#### 4. 指導にあたって

##### (1) 教材について

5年生は前期に左右の文字の組み立て方として「銀」、上下の文字の組み立て方として「雲」、「たれ」のある文字の組み立て方として「草原」、「かまえ」のある文字の組み立て方として「仲間」を学習してきている。また、後期には平仮名の字形と行の中心の学習で「もみじ」を書き、石川県硬筆書写コンクールの作品を書きながら、文字の中心や大きさについて学習をしてきた。

文字の大きさについては硬筆コンクールの作品を書くときにふれているが、漢字と仮名の文字の大きさだけを取り上げて指導することはしていない。また、硬筆では漢字と仮名の文字の大きさをとらえるには文字が細かく十分ではなかった。

そこで、本単元の「読む」において、漢字と仮名の2字を毛筆で扱うことにより、漢字と仮名の文字の大きさの違いがより視覚的に明らかとなる。また、硬筆に生かしていく際に、平仮名だけでなく、片仮名などさまざまな漢字仮名交じり分を書くことで、普段の書字においても意識付けを図りたい。

「読む」の学習では、さらに、平仮名のむすびの筆づかいや字形、へんとつくりのバランスなどこれまでに学習したことの復習も兼ねて学習が可能である。特に、「む」のむすびは筆づかいがこれまでに学習してきた「は」や「な」、「み」よりさらに難しくなる。硬筆でもなかなか「む」が書けない子も多いので、しっかりと筆づかいについても指導の時間を確保していきたい。

##### (2) 児童について

5年生は男子4名、女子8名、計12名の少人数クラスである。

始筆の10時半など基本的な筆づかいはできている子が多いが、点やはね、右はらいなどはまだ苦手とする子が多い。学習についてはいつも本時の共通課題と自分

の課題（共通課題以外に自分が気をつけたいこと）を意識させてきたが、共通課題に対しての意識が強く、自分の課題よりは共通課題に特に意識を向けながら書こうとする子が多い。

書写について、初めは準備の面倒さなどから嫌いな子が多かったが、字をほめながら学習を進めてくるにつれ、嫌いではなくなってきた子が増えているように感じる。4月には自分の字にほとんどの子が自信を持てなかったが、少しずつ自信ももてるようになってきている。

毛筆では意識をして書こうとしているが、硬筆、特に普段のノートの字で気をつけようとしている子はまだ少ない。きれいな字よりかわいい字を書こうとしている子がいたり、普段の字で直されてもほとんど気にしない子がいたりしている。硬筆へ生かしていこうとする意識や意欲はまだ低い。

漢字と仮名の文字の大きさに関しても、子どもたちは普段のノートで意識して書くことはできていない。硬筆コンクールの作品でも文字の中心や字の形に比べ、漢字と仮名の文字の大きさには意識は低かった。本単元の最後に硬筆の時間を確保し、様々な文字に発展させることで文字の大きさへの理解を深め、文字の大きさに注意して書こうとする態度を育てたい。

また、5年生の中には漢字の字形より平仮名の字形がうまく整えられない子が多い。硬筆でも特に「む」がうまく書けず、他にも「な」や「す」、「い」、「や」、「と」、「を」などが字形や外形が崩れがちである。本単元では、漢字・仮名の文字の大きさだけでなく、文字の字形についても丁寧に扱うことで、字形への意識を高めていきたい。

### (3) 課題を解決する力を育むための手だて

#### ①「自分の考えをもつ」ための手だて

自分の考えを持たせるための支援として、試書をした後に、教科書を見ながら自己批評をさせている。赤のチョークでうまく行かなかったところを自分で直すことで、自分の課題に気づかせるようにしたい。

#### ②「考えを出し合い、課題を追究する」ための手だて

考えを出し合い、課題を追求するために、板書の仕方を工夫したい。子どもたちの自己批評した部分の発表に時間をかけず、分かりやすく提示していくために、中央に教科書を拡大した紙を大きく貼り、そこに書き込みながら整理していきたい。

また、教科書を見ただけでは理解ができない子のために、点画ピースや視聴覚教材なども利用して視覚的に気づかせたり、考えを深めたりしていきたい。

#### ③「自己の学びを深める」ための手だて

自己の学びを深めるためにただ白い紙に練習するのではなく、目的を持って練習に取り組めるようワークシートを利用したい。子どもたち自身にどの練習用紙を選んだらよいか考えさせながら練習に取り組ませたい。また、適当な練習用紙が選べない子には机間支援を通して指導していきたい。

5. 学習計画（総時数 3時間）

	ねらい	学習活動と児童の主な意識の流れ	・支援と◎評価
第一次 文字の大きさに気をつけて書こう 一時間	<p>・漢字と平仮名の文字の大きさの違いを理解して書く。 (技能) (理解)</p>	<p style="text-align: center;">〈 本 時 〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「読む」の試書をし、自己批正する。</li> <li>本時の課題を持つ。 〈漢字と仮名の文字の大きさはどうしたらよいか〉</li> <li>ワークシートを使って練習する。 ・最初はかご字で練習しよう。 ・「む」の大きさを考えて書き入れるワークシートを使おう。</li> <li>まとめ書きをする。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>漢字と仮名では漢字を大きく書くんだな。 「読」の5画目、12画目の間のはばくらしいに「む」を書くとちょうどいいな。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>ふりかえりをする</li> </ol>	<p>・「読」「む」の大きさの違いに視覚的に気づかせるために点画ピースを利用する。</p> <p>◎「読」「む」の文字の大きさの違いを理解して書こうとしているか。(練習・まとめ書き・ふりかえり)</p> <p>◎文字の大きさの違いに気をつけて書くことができたか。(まとめ書き)</p>
第二次 これまでの学習を生かして書こう 一時間	<p>・自分の課題を持って練習し、毛筆で「読む」のまとめ書きをする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>・既習のへんとつくりのバランスや文字の外形、行の中心に気をつけて書く。 (技能)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>前時のふりかえりをする。 ・前回は漢字より平仮名を小さめに書くことを学習したな。 ・「む」の結びがむずかしかったな。 〈学習したことを生かして「読む」を仕上げよう〉</li> <li>今日のめあてを持つ。 ・へんとつくりのバランスに気をつけよう。 ・横画の間に気をつけて書こう。 ・「む」の外形に気をつけて書こう ・「む」のむすびをもっと上手に書けるようにしたい。</li> <li>ワークシートを使い練習する。</li> <li>本時のそれぞれの課題を再度想起させ、「読む」の仕上げをする。</li> <li>ふりかえりをして、上達したところを発表しよう。 ・〇〇さんは中心をしっかりそろえられるようになったな。 ・〇〇さんはむの結びがよくなったよ。</li> </ol>	<p>・前時のまとめ書きを自己批正しながら本時の課題を持たせる。</p> <p>◎自己批正から自分のめあてを持つことができたか。 (ふりかえり)</p> <p>・文字の外形やむすびの筆づかい、へんとつくりなどのワークシートを用意しておく。</p> <p>◎自分の課題を持って意欲的に練習し、毛筆で「読む」のまとめ書きをすることができたか。(まとめ書き、ふりかえり)</p>

第三次  
学んだことを硬筆に生かそう  
一時間

・漢字と平仮名・片仮名の文字の大きさの違いを理解し、硬筆に生かす。  
(技能)(理解)

1. 自分たちの字をふりかえる。
  - ・日頃、全然気にせず書いているなあ。
  - ・外形もくずれているなあ。
2. 教科書の硬筆文字をもとに片仮名の場合の文字の大きさの違いについても気づかせる。
  - ・片仮名の場合も平仮名と同じだなあ。
  - ・平仮名も片仮名もどちらも漢字より小さく書くんだな。

〈毛筆で学んだことを硬筆ノートに生かそう〉

3. 文字の大きさに気をつけながら硬筆書写ノートに練習する。
  - ・平仮名・片仮名は小さくだったな。
  - ・小さくしすぎないように気をつけないといけないな。
  - ・平仮名の字形にも気をつけないといけないな。
4. 本時のまとめをする。

硬筆でも平仮名や片仮名は漢字よりやや小さく書くとよい

5. ふりかえりをする

・子どもたちのノートなどから適当な部分を拡大コピーして用意しておく。

・教科書の硬筆の拡大を用意しておく。  
・漢字の左右に補助線を書かせることで片仮名が小さく書かれていることに視覚的に気づかせる。

◎漢字と仮名の文字の大きさの違いを理解して書くことができたか。



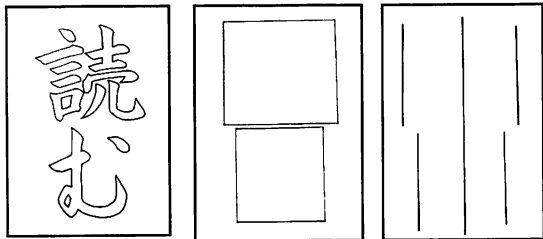
6. 本時の学習（第一次 1時）

(1) 題目 文字の大きさに気をつけて書こう

(2) ねらい

- ・漢字と平仮名が交ざっている場合には漢字より平仮名をやや小さく書くことを理解して書く。（技能）（理解）

(3) 学習過程

	児童の意識と活動の流れ	・支援と◎評価
7	1. 試書をし、自己批評をする。 ・「む」が大きくなりすぎた。 ・「む」の形が上手くいかなかった。	・自己批評がうまくできない子には机間支援の際に声かけを行う。
13	2. 本時の課題をつかむ ・「む」が大きすぎた。 ・「む」の結びが上手くいかなかった。 ・「む」の形が悪い。 ・ごんべんの画間がそろわなかった。  〈漢字と平仮名の文字の大きさはどうしたらよいか〉 ・平仮名と漢字は大きさを変えるときれいに見えるな。 ・中心をそろえることも大切だな。 ・「む」は「読」の5画目の下あたりから書き始めるといいな。 ・「む」のはらいは「読」の8画目くらいのところで上にはらうといいな。	・本時の課題以外に取り組める子は自分の課題も持たせる。 ・漢字と平仮名の大きさの違いに気づかせるために「む」の大きさを変えた点画ピースを利用する。 ・「む」のむすびの筆づかいについても視聴覚教材などを通して指導する。
15	3. ワークシートを選んで練習する。 ・全体の大きさをつかむためにかご字のワークシートを使おう。 ・「む」の大きさを考えて書くワークシートを使おう。 ・大きさがつかめてきたので中心と幅だけ分かるワークシートにチャレンジしよう。	・適当なワークシートを自分で選べない子には机間支援の時に指示する。 ・本時のめあてになくても、筆の持ち方や姿勢、筆づかいなど既習事項についてはできていない子がいたら机間支援中に声かけしたり、手をもって書いたりする。
		◎漢字と平仮名の文字の大きさの違いを理解して書こうとしているか。（練習の様子、ワークシートの選択）
5	4. 本時のまとめをし、まとめがきをする。  漢字と平仮名が交ざっている場合には、漢字より平仮名をやや小さく書くと整って見える。	◎漢字と平仮名の大きさの違いに気をつけて書くことができたか。（まとめ書き、ふりかえり）

5	<p>5. ふりかえりをし、互いの伸びを認め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの「読む」は前より字の大きさが良くなったよ。</li> <li>・〇〇さんは「む」の大きさや形も良くなってきたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいが達成できたかどうかという視点で認め合いをさせたい。</li> </ul>
---	--	---

(視点)

- 本時の課題へ導くための教師の支援（課題作りの方法・ワークシートなど）は適当であったか。
- ◇ 課題を持たせるまでの時間や練習の時間配分は適当であったか。

## 7. 授業を終えて

本時の前から子どもたちは今日書く「む」の結びが難しそうだと感じて、朝の会で「むのむすびに気をつけて書こう」ということを今日のめあてとしていた。また、自己批評の段階でも全員が「む」の結びに難しさを感じていた。そこで、今日の子どもの意識が「漢字とひらがなの大きさのちがいがい」より「むのむすびの書き方」のほうへ向いていると判断し、流れを変えて「むのむすび」に焦点を当てて授業を行った。しかし、後の整理会でも判断をするのが少し早かったとして反省点が残った。

「む」のむすびの筆づかいを理解させるために、パソコンの動画を利用し、プロジェクトで提示した。動画の筆づかいを見て、子どもたちは何度もイメージをつかもうとしていた。また、パソコンの動画は簡単にストップがかけられるので、必要な場所で動画をとめながら筆の向きを確認することができた。また、練習中にもグループ数人ずつを前に呼んで、目の前で実際に書いて見せた。その際には朱墨を含んだ筆の穂先に少しだけ墨をつけて書き、筆先の通ったところが分かるように工夫した。映像だけでなく、実際に見ることでさらにイメージをもって練習に取り組むことができた。しかし、前で範書するとき、子どもたちは斜めや横から見ていたので、書き手と同じ目線で見られるような工夫をすべきであった。

練習には念のために用意してあった「む」のむすびの練習用ワークシートを用意し、繰り返し練習を行った。形は意識して書くことができていたが、筆が返る部分などはなかなか筆づかいができなかった。そこで、机間指導の際に筆づかいができていない子の筆を持って書くように心がけた。筆づかいは言葉で言ったり、目で見せたりするより、実際に手を持って書くことが大切であることを改めて感じた。

最後の相互評価はそれぞれが書いたものを机に置き、全員が見て歩いた。その後、みんなの前でよかった人を発表した。ひとりひとりがみんなに見てもらい、その時々で評価をもらうことで一時間に書いた喜びを感じていたように思う。普段十分に振り返りをする時間が取れていないが、やはり、みんなで振り返り、共有しあう時間をとることは大切である。今後、このようなふりかえりの時間を大事にしていきたい。

そのほか、整理会では、教材との出会わせ方の工夫や、子どもたちの伸びが分かるポートフォリオの工夫などで示唆を頂いた。今回の授業も、子どもたちが先に「読む」を書くと感じていたために、今日のめあてで先に意識を「む」の結びに向けてしまった。書を通し豊かな心を育てるためにも、子どもたちがその言葉を書きたいという気持ちになるような導入の仕方を工夫していきたい。



## 公開授業の整理会 記録

金沢市立十一屋小学校 金野 豊

### ◇授業者より

- ・子どもの意識が「む」の結びにいったため、学習課題を変更した。朝の会で、子ども達が「む」の結びに気を付けて書くというめあてを立てていたことも関係していた。
- ・「ワークシート」の作り方、使い方についても見直す必要がある。
- ・「読」の細かい部分の指導に時間をかけすぎた。本時のめあての解決に時間をかけるべきだった。
- ・子ども同士の学び合いの時間をたくさんとればよかった。先生がしゃべりすぎた。
- ・筆の使い方について、もっと声かけをすればよかった。

### ◇質疑応答より (◎良い点、▲課題)

- ◎きめ細かい授業がとてもよかった。少人数が活かされた授業だった。
- ◎一人一人に声をかける先生の姿がとてもよかった。
- ◎子どもたちが映像を見ながら学習する姿がとてもよかった。
- ◎朱と黒の穂先を使って指導するのが、子どもたちにわかりやすかった。
- ◎学級経営がとてもよかった。
- ◎クイズなどを取り入れ待ち時間を工夫しているのがよかった。
- ◎先生と子どもが一体となって学習している様子が伝わってくる授業だった。
  
- ▲子どもたちの結びのとらえ方はどうだったのか。始めは「ひし形」としてとらえていたが、コンテンツの映像では結びが「三角形」になっていた。
- ▲手本を書くとき、子どもたちから見る角度が反対だったので、結びの筆使いが本当に理解できているのか。
- ▲子どもたちが教材と出会う場面（導入）をもっと工夫したら良いのではないか。

### ◇助言者より (◎良い点、□助言)

- ◎教材研究がしっかりなされているよい授業であった。
- ◎作品をファイルし残しているのが良かった。ふりかえるときに、自分の良くなったところを初めの作品と見比べることで頑張りや成果がわかる。日付も入れるとよい。
- ◎ 全体指導と個別指導のバランスがとても良かった。

- 「結び」は文字の字源から来ている。字源をしっかり学ぶことが大切である。
- 筆に文字を書かせてやることが大切。筆の持ち方や持つ腕の角度をしっかりと教えることが大切である。
- 文字の大小や中心を調べるときは、作品の上から見るとわかる。
- 手本を書くときは教科書に準じて書くようにする。
- 発言するときは、根拠をはっきりさせて話すように指導していくことが大切である。
- 研究した指導案や教材を蓄積し、実際の書写指導に広めていくことが必要である。
- 文字の大きさを考えるには、子どもの作品を取り上げ見比べると一目瞭然である。時間を短縮させる上で効果的である。

## 創作書道

### 書を身近に感じる授業の展開

学校法人日本航空学園  
日本航空第二高等学校  
池崎美枝子

日本航空第二高等学校は5年前能登空港に隣接した場所に開校した。高校生580名、大学校250名で職員も合わせておよそ千人規模が輪島校で日々青春を謳歌している。

全国47都道府県から生徒が集い、海外からの留学生も積極的に受け入れており、モンゴル・中国・トンガ・ブラジルといった国からの生徒も在学し国際交流が日常になっている。将来はパイロット、航空エンジニアを目標としているが、本年度から普通科コースも設け大学への選択肢の幅も広げた展開をしている。

高校書道学習指導要領「書道Ⅰ」における目標は「書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす」と謳ってあるわけだが、現実問題として金沢近郊の書道塾の先生がおっしゃるには「今こどもをお稽古に出すのは、スイミング、英語、公文、珠算が人気なんですよ、だから子どもが集まってなくて・・・」ということである。



そういったなかで、本年度校長から芸術書道を任され、3年生186名全員対象(1名はイギリスへ1年間留学のため185人)に今年度授業を展開することとなった。

授業を展開するに当たり、平成生まれの、デジタルな子どもたちにいかに筆を持つことの、ロマンとパッションを感じさせることができるかに心を砕いた。古典の持つ計り知れない迫力と緻密さ優雅さなどにたどり着くまでに、どのような動機付けが必要かと画策しながら年間指導計画を組んだ。

古典の凛とした、伝統を受け継ぐ誇りを、生徒達に伝えるためには抵抗なく筆を握り紙に書く行為から始めた方がいいだろうということで、最初に基礎基本を持ってくるか、好きなようにやらせるか、悩んだ。考えた結果、毛筆を持ったことがない生徒はいないだろうということで、すぐに作品を

書くことから始めた。

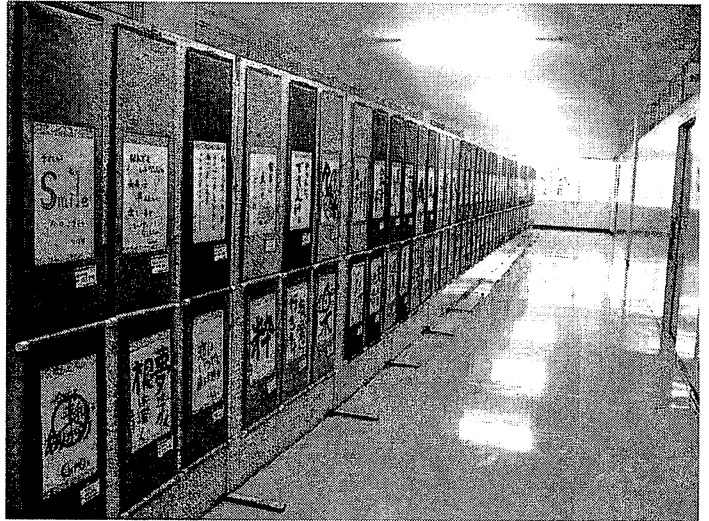
気をつけたのは、メリハリをつけて指導をするということ。ただこのひとつを心がけた。一所懸命書いたものには絶賛を、筆や紙を大事にしていけない適当な作品には厳しい指導を入れることによっていい加減に授業を受けるとマズイことになると思わせるように持つていくための盛り上げ方を工夫した。

まず、楷書や行書の手本を用意し、半紙に慣れさせた。そして、次に「写経」に挑戦させた。日常では小筆の使用頻度の方が高いことから、写経によって集中力も併せて高める指導を心がけた。小さな字を書いた後は、自分の好きな字を一字、半紙に大きく書かせることをした。写経を通して細かい作業に取り組んでいた神経を解き放つことによって、伸び伸びとした字を一字作品として仕上げることに楽しむことが出来た。

やがて、何枚か作品を書いた生徒達の作品を眺めているうちに、どうにかして生徒達の作品を発表できないだろうか考えるようになった。実は当初作品を、掛け軸にするという発想はまったくなかったのだが、半紙掛け軸が和紙で安価に仕上がることを知り、航空祭に向けて目標を持って作品制作に取りかかることになった。

作品用の手本など、用意することはたくさんあったが、そんな中でも生徒達は自分たちの感性で表現したいと声上がり、その自主性を尊重しつつも、授業中に何度もアドバイスを入れたり生徒と一緒に作品作りを手がけることが出来て、濃厚な時間の共有が出来たことは嬉しいことだった。

航空祭での「185本の掛軸展」は保護者の方々も大変喜ばれ、生徒達も自分たちの掛け軸を手にする事で達成感に浸り、書への興味関心意欲が高まった。



これをうけて、次に取り組んだのが、「扇子」である。日本絵の具と墨のコラボレーションを高校生の感性に任せながらも、手を入れたり、落款を押すことで満足のいく作品へと仕上がっていくプロセスを十分に味わうことによって、生徒達の書道の授業へのモチベーションがあがった。

毛筆には暑中見舞いや年賀状も実物大のものに書かせたりと、実用書道にも取り組んだ。また、硬筆も授業に取り入れ、前期は美しいひらがなを書く練習に引き続き、履歴書の書き方をやった。また、後期に入ってからのはがきや封筒の表書き、はがきの書き方などに取り組んだ。

座学の授業としては、書道が愉しいと感じるようになってから始めることによって、中国の古典である欧陽詢・虞世南・褚遂良・顔真卿といった唐の四大家について授業を行った。君は虞世南タイプの字だねとか、君は褚遂良タイプの字だねなんて言ってやると、どんな人物なのか、どんな字を書いた人なのかと、関心を持たれたようである。

書道教育を通しての目標は、社会人となってからも書に触れる機会を自ら持ってくれるようになればいいと考え、床の間の掛け軸をじっくりと眺めることができるようになればいいと考えている。航空業界に携わっていく人間の育成としてその基本を腹の据わった日本文化の分かる人となって欲しいという願いを込めて、生徒と接していこうと思っている。

### <展示風景>

平成19年航空祭 「185本の掛軸」



扇子を書と絵で飾る



## <掛軸作品作成 授業指導案>

パソコンや携帯電話の普及で字を書くことが少なくなってきた。ましてや筆で字を書くという事は、好んで書道をやってみようと思わない限り古典的行為ともいえるようになってきた。本校での建学の精神は「航空教育を通じて愛国の精神を培う」である。この愛国の精神を通し、日本の歴史を正しく学ぶ一環として三年生全員対象として書道の実践を導入した。

日本の伝統文化である書道を通じて、自分を表現する楽しみを感じさせ、掛軸に仕上げることで和の文化の素晴らしさを再発見させることを目指す。

本時目標		書を楽しみながら自己を表現する		
学習種	時間	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掛軸の説明</li> <li>・半紙に書く作品について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の和室における掛軸の存在</li> <li>・自分が書きたい作品について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和室や床の間、掛軸について知っていることをあげさせる</li> <li>・半紙を書く上で何をしたいか明確にさせる</li> </ul>
展開	180分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料図書を教卓に並べる</li> <li>・好きなアーティストの歌の歌詞や言葉を事前に調べさせ好きな部分を抜き出す</li> <li>・半紙に書かせて、提出させ、生徒と指導教師と相互に納得がいくものができれば、清書をさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料図書を見たり、友人達と話し合ったり、自分の好きな言葉や、歌詞を見つける。</li> <li>・言葉や歌詞をどこまで半紙に表現するか、レイアウトや字体を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あくまでも生徒主体の作品とするために細かい注意を与えない</li> <li>・表現を限定せずに、おおらかに取り組ませるために伸びやかに自由に表現できるよう喚起する</li> <li>・書けない生徒には、手本を与えたり、指導者の方で書き方をいくつか表現してやる</li> <li>・落款の場所を生徒と考える</li> </ul>
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できあがった作品を黒板に磁石で貼って並べながら鑑賞し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の仕事のいいところをあげながら、書道の表現の楽しさを味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞は批判や悪口にならないように注意をしながら、各自の作品の面白いところに着目させる。</li> </ul>

## <学園教師感想>

- ・ 書かされているというのではなく、「これが俺の字だ」という自由で楽しそうな表現が見えて一作品毎に生徒の顔が浮かびよかった。
- ・ 185名全員に書かせるという作業は大変だったと思うが、見ごたえのある展示だった。

## <書道担当より>

毛筆を持って二ヶ月足らずの生徒たちが、思い思いの文言を半紙にここまで表現するとは正直期待していなかった。よく見ると、筆の運びもレイアウトもたどたどしいのだが、各自が自己の表現を楽しんでのびのびと仕上げたところを評価したい。

書という古典文化を学びつつも、現代に息づく日常性に気づき、空間を楽しんでほしいと願って肩の力を抜いた授業を心がけた。その結果、航空祭において185本の展示という華やかな場を演出できて満足している。

## <生徒感想>

Q1.自分の作品を掛軸にするときどこに苦労したか。また、楽しんでできたところはどこか。

- ・ 書いて見て楽しい作品を作りたかった。掛軸の言葉はあるテレビ番組のもので、一番好きなセリフでした。
- ・ 普通に書いても面白くないので筆を二本使うことでだんだん雰囲気が出てきて面白かった。
- ・ 「作品」にするということで、どうしたら自分らしく書くことができるかというところに苦労したし、自分で考えて自分だけの作品ができるというのは、とても嬉しかった。

Q2.掛軸となった自分の作品を見てどう感じたか。

- ・ 掛軸になるとまったく違ったものになって、伝わってくるものがあつた。
- ・ 思ったよりも立派にできていたのでびっくりした。迫力があつてよかった。
- ・ やればすごいものができるんだと思った。

Q3.書道の授業についての感想

- ・ 自由に表現できて楽しかったです。
- ・ 小さいときから書道をやっていたので、もともと好きでしたが自分で工夫して書くのはとても楽しかったです。
- ・ 書道の授業ができて落ち着くことができたと思うし、少しは筆使いがよくなったと思う。

## <参考文献>

- 「感じの漢字」書&文高橋政巳
- 「現代書道講座」（基本編・応用編・実用編）鈴木香雨
- 「はがき絵上達テクニック」原綾
- 「墨場必携」小野鷺堂
- 「英漢字 作品集」國重友美
- 「書道・創作入門コツのコツ」石飛博光
- 「条幅手本・かな」かな書道作家協会
- 「梵字アートを楽しもう」矢島峰月
- 「書愉道」武田双雲
- 「かな交じり書レッスンブック」金子卓義
- 「書の世界」書道資料集
- 「国語便覧」
- 「明鏡国語辞典」



大会に参加して

## 基礎・基本を大切にすること

金沢市立諸江町小学校

講師 岡野 美紀

今回、金沢市立三谷小学校の新谷幸一教諭の「文字の大きさ（漢字と仮名）を知ろう『読む』」の研究授業、全体会の両方に参加することができ、いろいろなことを学ばせていただくことができました。全体会で学んだことを織り込みながら研究授業に的を絞って感想を述べていきたいと思えます。

まず、公開授業では、自分で課題を持ち進んで書こうとする意欲が伝わってきました。毎日当番が書くという（今日、一日がんばりたいこと）をこめた小黒板には『む』の結びに気をつけて書く」とありました。授業が始まる前から子どものやる気を垣間みた瞬間でした。また、自分の書いた作品と手本とを見比べ、赤チョークで自己評価をしていました。自分の課題を再認識している姿に一生懸命さが伝わってきました。やはり、お手本があるからには同じように書いてみたいという思いが生まれます。その思いを大切に、それを可能にしたのがコンテンツの活用だったと思えます。子どもたちが筆使いを理解し文字を整えて書くことができたことは、初めに書いた作品と最後の作品を見比べてみると一目瞭然でした。私は昨年度、4学年と6学年の書写の時間を受け持っていたのですが、高学年ともなると、毛筆に対する新鮮な気持ちが薄れ、苦手意識を持つ児童がでてくるように感じます。しかし、筆の穂先の様子、書くスピードなど、臨場感あふれるコンテンツを活用することで、失いかけた意欲を取り戻せるように感じました。コンテンツを通して、子どもたちは視覚的に筆使いを学び、実際にコンテンツを見ながら5本の指を筆に見立てて動かすことで自分でもやれそう、できそう、やってみみたいという思いになったはずで、私自身もそんな思いに駆られました。

そのほか、子どもたちの間から、画間をそろえる、右上がりを書く、「む」の結びに気をつける、「む」は「読」の5画目あたりから書き始めるなど、点画を書くときの基礎・基本が聞かれ、既習が活かされていることを嬉しく思いました。既習や本時で理解した基礎・基本から、相互評価ができ、お互いを高め合えることができるとあらためて感じました。一年間のまとめとして、今までどんな学習をしてきたのか、その一連の流れを年表のようにして子どもたちと一緒に振り返り、自分の文字を見つめ直し、毛筆と硬筆との関連をさらに深めていけたらいいなと思いました。

最後に、書写書道教育研究大会を開催してくださった皆様に感謝の気持ちをお送りしたいと思います。ありがとうございました。

## 第18回石川県書写書道教育研究大会に参加して

### 豊かな心

石川県立加賀高等学校 南 喜久子

初めて参加させていただきました。研究大会テーマ「基礎、基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」も然り、研究協議会Ⅰから公開授業、高等学校の実践発表、そして研究協議会Ⅱへと、内容のしっかり詰った大会でありました。

まず、香川大会参加報告では、配られた資料の内容の確かさと量の豊富さに敬服いたしました。話を伺っていると、授業風景（児童の声や教室内のザワザワとした音までも聞こえるような臨場感）が目に見えてまいりました。教師の教材の準備に、多くの時間と労力を要したことと想像いたしました。

続いて公開授業です。木目の美しい校舎内の3階に5年生の教室があり、そこで参加させていただきました。チャイムが鳴る前に室内に入らせていただくと、12人の児童は緊張する様子もなく自然体でした。その雰囲気に関心していると授業が始まり、新谷先生の穏やかな口調が進められる中、児童は伸々してやはり自然体で受けていました。展示物も書作品が美しい包装紙で一人ひとりの手作り掛け軸仕立てに飾られていて、感服いたしました。

授業内容については、赤チョークで児童自らが自作品を修正している事が、特に素晴らしい指導方法だと思いました。

私は、高校勤務ですので、書道室で授業をさせていただいております。机も幅広で、余裕もあり、教室内に水道も設置されています。硯を毎回必ず綺麗に洗う（砥石を使って）、筆もしっかり洗う等、道具を正しく使うことこそ、豊かな心が育まれるのではないかと考えています。紙ももう少し上質の和紙を使用して線質の浅い深い等を体感することも感性が豊かになると思っています。

小学校でも、余裕のある空間で書写教育が出来るよう希望いたします。

高等学校実践発表については、池崎先生のご指導に大変興味深く聞かせていただきました。私自身の授業のあり方、進め方、生徒との問答や会話、そして評価の内容まで回想し自問自答させていただきました。今後の指針に大いに役立たせていただきました。

特に、創作作品での落款印の大きさや押す位置の重要性を改めて認識いたしました。指導者は、技術は勿論、芸術科書道を正しく導くプロでなければなりません。その為には、指導者が豊かな感性を持ち合わせていることです。そして豊かな心で、生徒と接し、生徒のための授業を行うべきだと再確認いたしました。

研究協議会Ⅱでも貴重な意見や助言等、多く聞かせていただきました。私自身反省する点や気付かされた事等学ぶことばかりでした。

このような機会を頂戴して心からお礼を申し上げます。本当に有りがとうございました。

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

連 盟 規 約

## 石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。(昭和62年) (1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ〔金沢大学教育学部書道演習室〕(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会〔ホテル六華苑〕(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

### 平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>  
顧問 南 和男<石川県教育長>  
相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

会長 藤 則雄<金沢大学教育学部長>  
副会長 [石川県教育委員会学校指導課長] 三宅正敏  
[金沢市小学校教育研究会書写部長] 河本隆成<金沢市立馬場小教頭>  
[金沢市中学校教育研究会習字部長] 大野重幸<金沢市立金石中校長>  
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] 佐藤政俊<金沢女子高校長>  
[石川書写の会会長] 山田泰正<鹿島町立越路小校長>  
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 法水光雄<金沢大学助教授>

理事長 [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任  
副理事長 : 幼・保部 : 嘉門久直<森本幼稚園長>  
: 小学校部 : 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>  
: 中学校部 : 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>  
: 高校部 : 中山武久<津幡高校教諭>

監事 吉田一郎<小松市立向本折小校長>  
木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>

理事 : 県教委学校指導課 :  
[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子  
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫

#### \* 金沢地区

: 幼・保部 : 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>  
: 小学校部 : 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>  
: 中学校部 : 千場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>  
: 高校部 : 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>  
: 障害児学校部 : 南 進 <県立養護学校教頭>

#### \* 加賀地区

: 小学校部 : 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>  
: 中学校部 : 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>  
: 高校部 : 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>  
: 障害児学校部 : 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

#### \* 能登地区

: 小学校部 : 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>  
: 高校部 : 蛸喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

#### 事務局

: 事務局長 : 永江芳教<金沢商高教諭>  
: 副事務局長 : 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>  
: 庶務部 : 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>  
: 会計部 : 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>  
: 研究部 : 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>  
: 会報部 : 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭> 大坂育代<湯野小教諭>  
: 研修部 : 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>  
: 調査部 : 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭> 西川真理<野々市小教諭>

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会  
 ～17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》  
 12. 1 第1回理事会〔金沢商業高等学校〕  
 12. 10 『石川県書写書道教育』（創刊号）発行

1990. 5. 18 第2回理事会〔金沢商業高等学校〕  
 (平成2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』（第2号）発行

**11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会**  
**〔金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校〕**  
 第3回理事会

1991. 2. 23 第4回理事会  
 (平成3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』（第3号）発行  
 6. 4 第5回理事会〔金沢商業高等学校〕  
 10. 30 『石川県書写書道教育』（第4号）発行

**11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会**  
**〔野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校〕**  
 第6回理事会

1992. 3. 26 第7回理事会〔金沢ガーデンホテル〕  
 (平成4年) 3. 30 『石川県書写書道教育』（第5号）発行  
 5. 28 第8回理事会〔金沢中央高等学校〕  
 10. 20 『石川県書写書道教育』（第6号）発行

**11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会**〔金沢市立鳴和中学校〕  
 第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』（第7号）発行  
 (平成5年) 6. 4 第10回理事会〔金沢中央高等学校〕

**11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会**  
**〔石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校〕**  
 第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』（第8号）発行  
 (平成6年) 6. 4 第12回理事会〔金沢中央高等学校〕  
 第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

**10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会**〔小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校〕  
 第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』（第9号）発行  
 1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』（第10号）発行  
 (平成7年) 6. 6 第14回理事会〔金沢商業高等学校〕  
 9. 20 『石川県書写書道教育』（第11号）発行

**10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会**〔鹿島町立越路小学校・ラビア鹿島〕  
 第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』（第12号）発行  
 (平成8年) 4. 25 第16回理事会〔金沢商業高等学校〕  
 6. 6 第17回理事会〔金沢商業高等学校〕  
 10. 『石川県書写書道教育』（第13号）発行

**11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会**〔金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校〕  
 第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』（第14号）発行  
 (平成9年) 6. 25 第19回理事会〔六華苑〕  
 10. 『石川県書写書道教育』（第15号）発行

**11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]**  
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号)発行  
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]  
10. 『石川県書写書道教育』(第17号)発行

**11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]**  
第22回理事会

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号)発行  
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]  
9. 『石川県書写書道教育』(第19号)発行

**10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]**  
第24回理事会

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号)発行  
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]  
10. 『石川県書写書道教育』(第21号)発行

**12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]**  
第26回理事会

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号)発行  
(平成13年) 6. 9 第27回理事会 [六華苑]  
10. 『石川県書写書道教育』(第23号)発行

**12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]**  
第28回理事会

2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号)発行  
(平成14年) 8. 8 第29回理事会 [六華苑]  
10. 23 『石川県書写書道教育』(第25号)発行

**12.5 第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・菅原小学校]**  
第30回理事会 [野々市町フォルテ]

2003. 8. 27 第31回理事会 [六華苑]  
(平成15年) **12.4 第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町教育研修館(金沢大学サテライトプラザ)]**  
第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

2004. 8. 10 第33回理事会 [六華苑]  
(平成16年) 12. 『石川県書写書道教育』(第26号)発行  
**12.10 第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・蕪城小学校]**  
第34回理事会 [松任市市民交流センター]

2005. 10. 3 第35回理事会 [六華苑]  
(平成17年) 12. 2 県大会準備会  
**12.9 第16回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]**  
第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

2006. 10. 3 第37回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]  
(平成18年) 11. 17 県大会準備会  
**11.27 第17回石川県書写書道教育研究大会[石川県立小松明峰高等学校・小松市立串小学校]**  
第38回理事会 [石川県立小松明峰高等学校]

2007. 10. 18 第39回理事会 [兼六荘]  
(平成19年) 11. 28 県大会準備会  
**12. 4 第18回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立三谷小学校]**  
第40回理事会 [金沢市立三谷小学校]

# 石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかける」をめざして—
9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」



11	2000.12. 7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		
12	2001.12. 7	【根上町総合文化会館】 ・研究協議	町川 哲先生 (香川県土庄小学校教諭)	「書写指導における具体的実践にむけて」 ～香川県の実践をもとに～
13	2002.12. 5	野々市町立普原小学校6年 ・研究協議		
14	2003.12. 4	【金沢市西町研修館】 (金沢大学サテライトプラザ) ・研究協議		
15	2004.12.10	松任市立蕪城小学校3・6年 ・研究協議		
16	2005.12. 9	【金沢市教育プラザ富樫】 ・研究協議		
17	2006.11.27	小松市立串小学校3年 石川県立小松明峰高等学校1年 ・研究協議		
18	2007.12. 4	金沢市立三谷小学校5年 ・研究協議		

平成19年度 石川県書写書道教育連盟役員

〈☆印 新〉（敬称略）

顧問 中西吉明〈石川県教育委員会教育長〉

相談役 坂口 敏 久田久信 氷田茂良 法水光雄 押木秀樹

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成  
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子 石浦義彦 ☆林昭悦

会長 藤 則雄〈金沢大学名誉教授・元金沢大学教育学部長〉

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	浅田秀雄
[石川県私立幼稚園協会理事長]	☆田中辰実〈千代野幼稚園園長〉
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)]	長井珠子〈金沢市立花園小学校校長〉
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	吉崎利成〈金沢市立芝原中学校校長〉
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	☆山下一夫〈県立金沢錦丘高等学校校長〉
[石川県特別支援諸学校校長会代表]	☆高田 茂〈県立ろう学校校長〉
[石川書写の会会長]	町出憲子〈金沢市立大浦小学校校長〉
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	折川 司〈金沢大学准教授〉

理事長 永江芳教〈県立金沢泉丘高校教諭〉

副理事長

：小学校部： 大浦 努〈金沢市立森本小学校教諭〉  
：特別支援諸学校部：☆澤田清司〈県立ろう学校教頭〉[県特殊教育諸学校教頭会代表]

監事 帽子山瑞枝〈和倉小学校教頭〉 古本佳世〈兼六中学校教諭〉

理事

\*石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] ☆谷藤真喜子〈県教育センター指導主事〉  
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] ☆新谷喜之〈県学校指導課指導主事〉

\*金沢地区

：幼・保部： 青山洋子〈みどり・かわい幼稚園副園長〉  
：小学校部： 石野昌子〈扇台小学校教諭〉 中川晃成〈中村町小学校教諭〉  
：中学校部： 福島絹子〈大徳中学校教諭〉 古本佳世〈兼六中学校教諭〉  
：高校部： 田中学〈金沢伏見高校教諭〉

\*能登地区

- : 小学校部: 帽子山瑞枝<和倉小学校教頭> 奥原せい子<門前東小学校教諭>  
: 高校部: 嬬喜代子<県立飯田高校教諭>  
: 盲・ろう・養護学校部: 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長: 中川晃成<中村町小学校教諭>  
: 副事務局長: 岩田稚子<錦丘中学校教諭> 八田和幸<高岡中学校教諭>

: 庶務部

- 部長・田中学<金沢伏見高校教諭> 副部長・堀順一郎<野々市中学校教諭>  
・西脇良樹<越路小学校教諭> ・山田千恵<月津小学校教諭>

: 会計部:

- 部長・西尾恵美子<串小学校教諭> 副部長・山口雅美<安原小学校教諭>  
部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

: 研究調査部:

- 部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>・副部長・柿木千鶴<諸江町小学校教諭>  
・坂井雪絵<志雄小学校教諭> ・木之下知子<杜の里小学校教諭>  
・倉下真澄<金沢大学附属中学校講師>・間野清美<旭丘小学校教諭>  
・東山麻由美<鳳至小学校教諭> ・飯田淳一<大徳小学校教諭>  
・金野 豊<十一屋小学校教諭> ・永井重輝<森本小学校教諭>  
☆西谷 充子<諸江町小学校教諭> ☆岡野 美紀<諸江町小学校講師>

: 会報部:

- 部長・新谷幸一<三谷小学校教諭>・副部長・北野京子<諸江町小学校教諭>  
部員・佃さえ子<泉野小学校教諭> ・寺井純子<町野小学校教諭>  
・岸瑞代<大聖寺高校講師> ・中辻育代<能美小学校教諭>  
・吉田美晴<浅野川小学校教諭>・水谷清美<千坂小学校教諭>

# 石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局）本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。  
（1）研究会の開催  
（2）会報の発行  
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力  
（4）講演会・講習会の開催  
（5）調査研究  
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。  
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名  
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名  
事務局長 1名 副事務局長 若干名  
（1）事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。  
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部  
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。  
（3）役員を選出と任期は、下記のように定める。  
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。  
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。  
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。  
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

## [附則]

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定  
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品=古硯・印材・筆・墨・硯・紙  
国内品=画仙紙・色紙・各種書道額縁

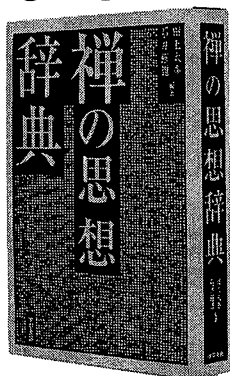
## 書道用品専門店

文房四宝 **文真堂**

金沢市尾張町2丁目11の28 TEL 264-1836

「禅とは何か？」—この問いに正面から向き合った、日本で初めての辞典!

# 禅の思想辞典



編著者◎田上太秀  
石井修道

A5判 上製本・ケース入り  
定価12,600円(税込)

東京書籍  
創立100周年  
記念出版

【挨拶】 人として、もっとも基本とされる日常的行為ですが、その言葉の本来の意味とは?

【日日は好日】 にちにちげこうにち。茶道においても使われる言葉ですが、その真意とは?

◎インドに源を持ち、中国、朝鮮、日本に広まった「禅」とはどのような思想背景によって形成されたのか? 宗教としてだけでなく、芸術、茶道、さらに日本人の生活や感性深く根ざした「禅」を詳しく分析、解説する決定版。

**東京書籍** 書籍営業部 <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>  
〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 TEL03-5390-7531 FAX03-5390-7538  
北陸支社: 〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル  
TEL076-222-7581 FAX076-232-2719

技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社

大 冨

本社 〒729-3497 広島県甲奴郡上下町字上下1513-1  
 TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528

東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5  
 TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251

福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24  
 TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048

額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

練習用から作品用まで

墨液

(練習用)  
墨液  
濃墨液



玄宗

(作品用)

普通  
中濃  
濃墨  
超濃



巒墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1  
(0742) 26-5611

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液

天衣無縫

松潤

書芸吳竹



紫紺系黒  
純黒  
青系黒  
濃墨



作品用磨墨液

株式会社呉竹

Kuretake 〒630-8670 奈良市南宮崎町7-576  
TEL.0742.50.2050 FAX.0742.50.2070

伝統的工芸品指定 熊野筆  
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

☎731-4215

本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009番地

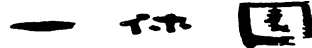
東京 東京都台東区台東3-42-4

書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造  
併設全日本書作家継成道場

熊野筆センター  
株式会社



本社 〒730-0051 広島市中区大手町1-5-11 TEL082(543)2844

大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605

東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119

「アンテナショップ」  
熊野筆センター-広島店  
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-2-9 TEL082(222)1919

因州産紙  
書道用紙  
洋紙板紙  
包装資材



株式会社

因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地

TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811

E-mail insyuys@apionet.or.jp

高級刑・額縁 各種特注品 器具製作  
高級木製額縁 各種屏風・衝立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33

TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851

ホームページ: http://www.media-pro.co.jp/~sanbu

Eメール: san@pl.tcnnet.ne.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

# 光村の書写教材 光村図書版教科書完全準拠

## ●小学校書写 児童用教材

書写の練習 1,2年上下 3～6年刊 各320円(税込)

毛筆書写の練習 3～6年 年刊 各420円(税込)

## ●小学校書写 指導用資料(学校備品)

毛筆書写指導ビデオ(準拠外)全3巻 各9,975円(税込)

書写掛図(硬筆) 1,2年各1巻 各12,600円(税込)

書写掛図(毛筆) 3～6年各1巻 各16,800円(税込)

## ●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳 1年/2,3年全2冊 各350円(税込)

光村教育図書株式会社 〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-4  
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

新しい時代へ  
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

## AO 能登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号

TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559

工場 ● 〒924-0013 石川県白山市番匠町293番地

TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016

グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076)267-2077  
FAX (076)267-2078

書道、水墨画用品の激安専門店!

日本書道販売株式会社  
**ミドリヤ**

本店 石川県能美市五間堂46-6  
TEL 0120-58-4344 FAX 0120-58-4346  
営業時間 10:00~18:00

画仙紙(紅星牌・福建紙・台湾紙・因州・伊予半紙・料紙・和紙)  
和筆(広島熊野筆)・唐筆(上海工芸)  
和墨(呉竹・墨運堂・古梅園・開明)  
唐墨硯(端溪・老坑・歙州・澄泥・細羅紋)  
印材(青田・巴林・寿山)・印刀(永字牌等)  
色紙、短冊、和紙小物  
額(書道額、テッサン額、水墨画用額)  
表装、表装用品

★通信販売もしています

文 溪 堂  
新 学 社  
光 文 書 院  
教 育 同 人 社  
日 本 標 準



代理店

教材・教具・文具

**藤田商店**

小松市新鍛冶町13の1  
TEL0761-21-3278

あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売 有限会社 **本田教材社**

書道セット  
かきかたノート  
石川書写の会編  
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26  
☎ (076)241-1339  
FAX (076)241-7705



# (株)津田精工

白山市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

日本画・洋画

美術部

屏額掛  
風装軸

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

襖貼  
製作  
工作  
事部

学校教材特約店

## 島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町の41  
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4  
TEL (076)251-1702  
FAX (076)251-1701

## 本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどける

# うつのみや

柿木島本店 / 金沢市広坂 1-1-30 電話 076-234-8111

年  
松井  
秀喜

**大好評** ○名前書きの指導にぴったり  
あなたのお名前の手本をサービス ○長年使えるパウチ加工  
○中央線も入って見やすい

ヤマガミの書道セットには  
お手本ねーむがついてくる!

有限会社 ヤマガミ共育社  
〒921-8001 金沢市高島3-154  
TEL. 291-1250 FAX. 292-8008

書籍・文房具・教材・教具

## 粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県白山市水島町168  
TEL 277-0303  
FAX 277-2505

## あしたの教育を拓く

- 暁教育図書 の 教育図書 ・ 教材
- 毎日の学習教材 「はつらつ」

北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4  
☎(076)232-2425(代)

## 金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

# 二木紙店

金沢市金石西3-7-9  
TEL 267-0503 FAX 267-5271



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773  
FAX 231-6940

学校教材なんでも

## ㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載  
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>  
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市諸江町中丁179-3  
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562  
営業時間 AM 9:00~PM 11:00